大好き！絵本

初瀬　恵美

『ぶたらっぱ』
さく・え：下田昌克
らっぱ：谷川俊太郎
出版社：そうえん社

1月23日に下田昌克さんが来園してくださいました。子どもたちと恐竜の絵を描いてくださって大盛り上がりでした。何も見ずに恐竜の絵をさらさら～っと描かれていたり、子どもが描いている絵のタッチに似せて、対の絵を描いてくださったりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。下田さんは、恐竜の絵のみならず、キャンバス地で恐竜の骨格を制作されたり、絵本やCDジャケットなどを描いたり幅広く、ご活躍されています。下に、ご紹介して載せているのはほんの一部ですが、制作依頼があれば、その依頼にそう絵はどんなものかを、考えて絵のタッチも変えながら描くそうです。無限の可能性をもつとても魅力的な方でした。絵本製作の裏話をお伺いすることもできたのでその一つをご紹介させていただこうと思います。

きらきら組で大人気の『ぶたらっぱ』。この絵本の表紙をよく見てみると…「さく・え下田昌克」**「らっぱ　谷川俊太郎」**となっています。**「らっぱ！？」**今まで見たこともない何とも言えない面白さ（笑）から表紙が始まっています。何故そうなったのか‥教えてくださいました！あるとき下田さんは姪御さんからハーモニカの練習をしていると、どうしても吹くことができない音があり、その音を吹くと豚の鳴き声に聞こえる…という話しを聞きました。その話にインスピレーションを受けて、姪御さんを喜ばせようとマジックのマッキーで絵を描き、プレゼントしたそうです。豚の鳴き声なら、ハーモニカよりもラッパのほうがいいと、楽器をラッパに変えて、ラッパの穴を豚鼻にして絵本を作りました。その個人的にプレゼントした絵本を販売することになり、一人称だった文章を谷川さんに書き直していただいたそうです。でも、もとの文章は下田さんが書いていたのでどうするかとなったとき、**谷川さんご本人が「らっぱでいいよ。らっぱにしよう！」と、「らっぱ　谷川俊太郎」となったそうです。**下田さんは**「「作」**でなくて**「らっぱ」**でも通じるのは谷川さんだからだろうな～。」といって笑っていらっしゃいました。ユーモアと粋にあふれるお二人だからこそ、固定概念を覆すものが表紙からできたようです！絵本は何とも奇想天外ですが、明るい絵と、ラッパの擬音語がとても面白く、子どものこころをギュッとつかみます。

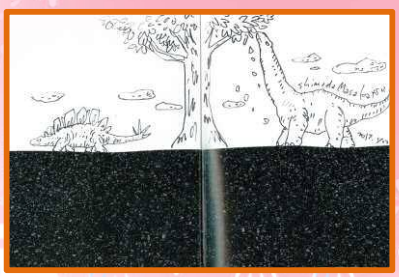
今回ご紹介できなかった下の作品も保育園にあるので、ぜひご覧になってみてください。どれも下田さんご自身がもつ明るさやパワーが感じられるものとなっています。また、それぞれの本にサインをいただいてますが、絵本に合わせた絵を描いてくださっています。世界に一つだけの素敵な絵もあわせてご覧になってみてください。

『あーん』
クレヨンハウス

『ねずみじょうど』
岩波書店

『恐竜人間』
PARCO出版

『恐竜がいた』
スイッチ・パブリッシング



サインをいただきました！